

## 市内景気動向調査結果

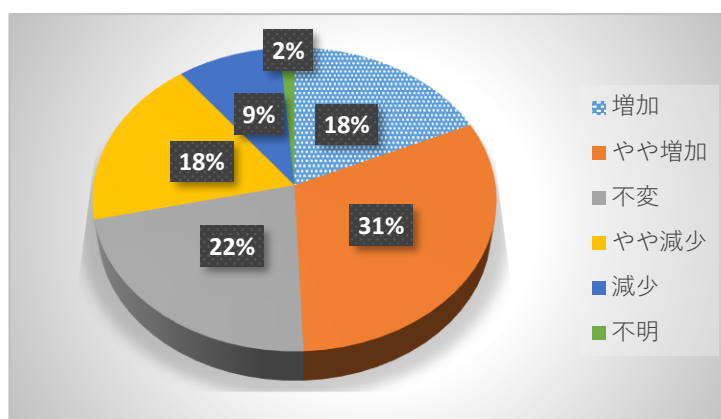
この調査は、第2四半期（本年7月から9月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し当商工会員より回答いただいたものです。

回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
77	18	10	9	18	17	5

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、

### 1. 売上高はどう変化したか。

増加	14
やや増加	24
不変	17
やや減少	14
減少	7
不明	1
合計	77

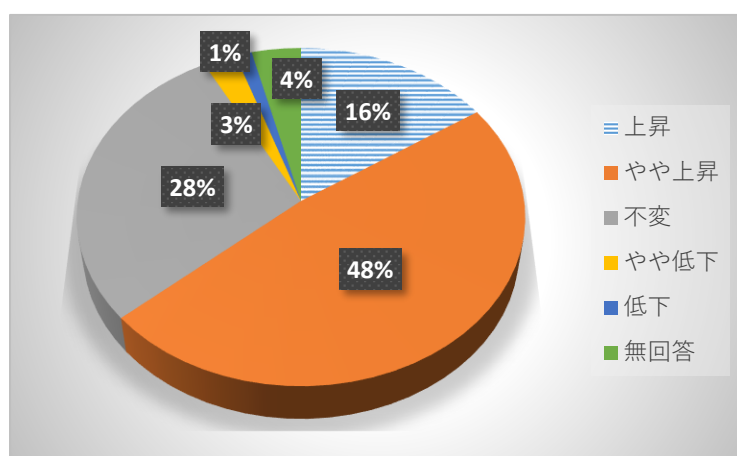


#### 【コメント】

- 増加・やや増加が38件、やや減少・減少が21件であった。第一四半期と比較し増加・やや増加が約6ポイント上昇、やや減少・減少が約12ポイント下降した。
- 第一四半期では、増加・やや増加が建設業で約33%であったが約61%に上昇、製造業では約82%から50%へ減少した。
- 運輸業の約44%がやや減少・減少と回答しており、第一四半期の約33%からさらに悪化した。
- 第一四半期で一番悪い結果であった建設業が大幅に好転した結果となった。
- 消費増税前の駆け込み需要により、売上が増加した事業所もあり

### 2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	12
やや上昇	37
不変	22
やや低下	2
低下	1
無回答	3
合計	77

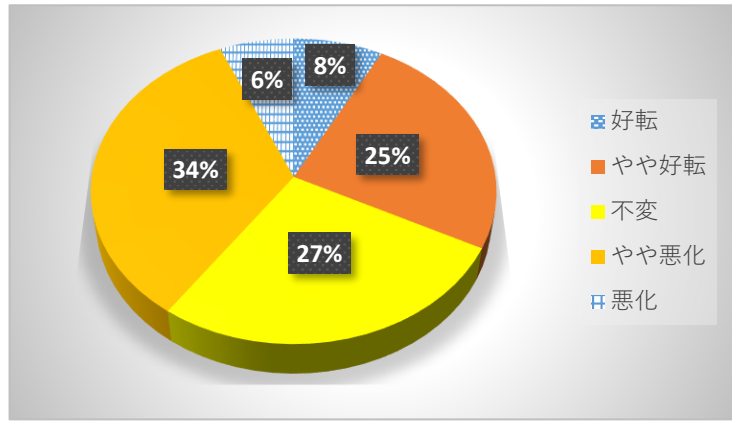


#### 【コメント】

- 上昇・やや上昇が約64%で、第一四半期の約70%より減少したものの依然として高い水準にある
- 上昇・やや上昇は、建設業が約89%、製造業が80%、運輸業が約67%であり、第一四半期で約80%であった卸小売業は約56%となった

### 3. 採算について

好転	6
やや好転	19
不変	21
やや悪化	26
悪化	5
合計	77

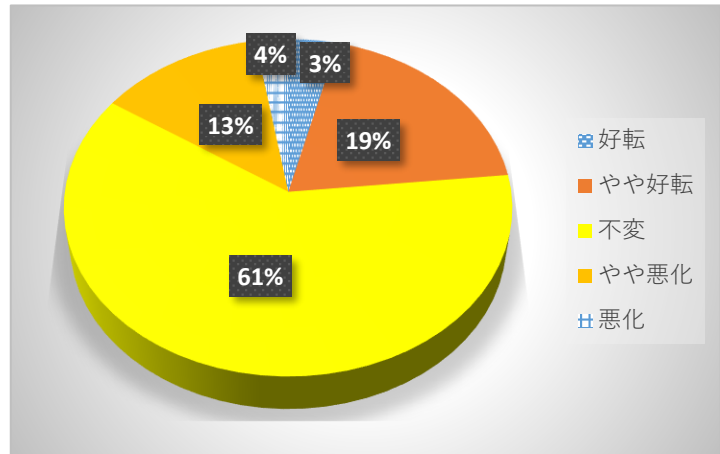


#### 【コメント】

- 第一四半期では、好転・やや好転、やや悪化・悪化がともに約34%であったが、好転・やや好転が2ポイント減少し、やや悪化・悪化が6ポイント上昇。仕入単価の上昇が悪化の要因となった。
- 特に運輸業は売上高が減少、仕入単価の上昇により約78%がやや悪化・悪化と回答。次いで製造業が40%であった。
- 人件費の上昇も採算悪化の要因となった

### 4. 資金繰りについて

好転	3
やや好転	15
不変	47
やや悪化	10
悪化	2
合計	77

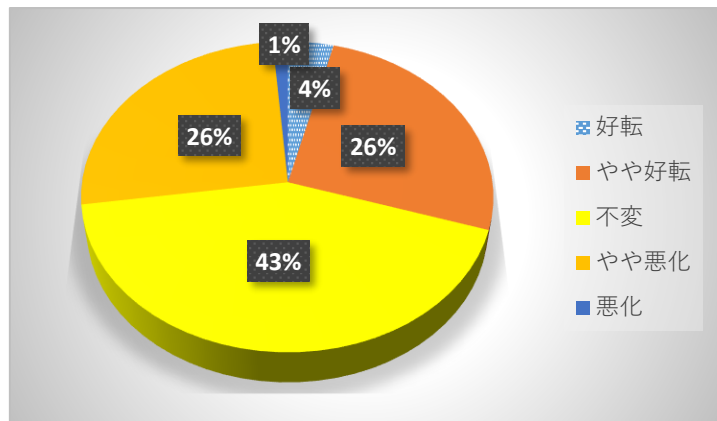


#### 【コメント】

- 第一四半期と比較しても大きい変化はないが、売上高の減少、仕入単価の上昇と、状況が悪化していることから引き続き注視する必要がある。

### 5. 業況について

好転	3
やや好転	20
不変	33
やや悪化	20
悪化	1
合計	77

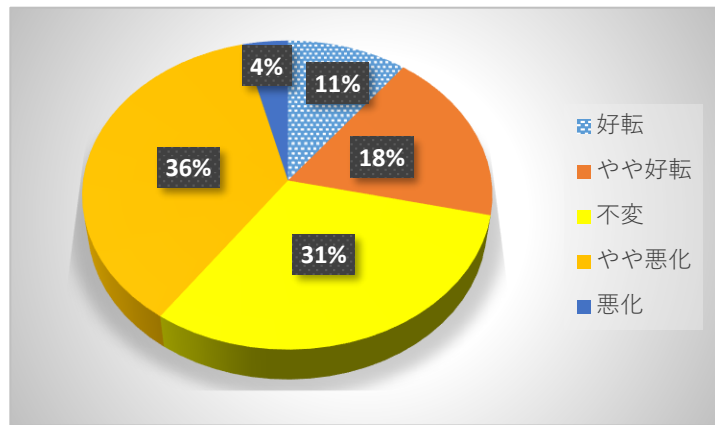


#### 【コメント】

- 好転・やや好転が約30%、不変が約43%、やや悪化・悪化が約27%で売上減少、仕入単価の上昇で採算が悪化しているが、不変と回答した事業所が大幅に増え、大きな変化はなかった

## 6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	8
やや好転	14
不変	24
やや悪化	28
悪化	3
合計	77



### 【コメント】

- 好転・やや好転が約29%、不変が約31%、やや悪化・悪化が約40%であった消費税増税、人件費の増加などの影響により、やや悪化・悪化と回答した事業所が大幅に増加した

### ■回答事業所からのコメント

- ・ 災害の影響によりボルト不足で工期の延期など小規模、急ぎの建築の消滅など。デフレの影響も感じる。今後消費税10%がどうなるか心配です。
- ・ 景気や消費税アップは影響が少ないと思います。インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症が流行するかも大切なポイントになります。
- ・ 10月からの消費税の増税による駆け込み需要により売上が上昇しましたが、その反動が10月に来ると思われる。国のキャッシュレス還元の効果を期待します。
- ・ 10月増税に伴う市場環境の悪化。
- ・ 前年同期と比べて売上は伸びたが、今後3ヶ月は収支に特に差が出ない見通しのため。
- ・ 消費税アップにより買い控えが予想されるため。
- ・ 事業所に職員が足りず、受注ができない状況であります。人員不足。
- ・ 仕事はあるのですが、人手不足のため好転になかなかありません。
- ・ 公共工事であることから第3四半期から工場稼働が増大する。前半の工場稼働率の挽回が期待できる。
- ・ 今年度の受注工事の中で大型の3億6千万円工事あり、今年度中に完成工事とならず越年工事となるため完成工事高が減少となり業況がやや悪化する。来期は越年工事があるためやや好転する。
- ・ 建設市場は上向き傾向のため当社も左右されます。資産の購入をかなりしているため、利益については削られる現状があります。冬の落ち込みが心配です。
- ・ 人手不足により価格の上昇や事業の統廃合がある。そのためオリンピック景気に水を差している状況になっていると思う。
- ・ 昨年度は新千歳空港等への出荷もあったため、前年比は減少しているが、以後の受注状況は好調であり堅調に推移すると見込んでいます。
- ・ 昨年のお雪の影響および働き方改革関連法による労働時間の抑制が原因の可能性大。
- ・ 人員不足による工事の受注減。入札の落札件数の低下。
- ・ 軽油単価がサウジアラビアの石油基地破壊により、今後高騰が予想されるため。
- ・ 増税前でのタイヤ単価上昇のみならず、関連部品等全てで値上がりがあり厳しい状況です。
- ・ 季節的に厳しくなっていくのではと思います。
- ・ 自治体の予算が執行され、お金が動き出したから多少良くなったと思う。ただ燃料高により運賃、資材等のUPは予想以上に感じます。消費税UPでまた景気が一段と落ち込むと思う
- ・ 契約料金の見直し(取扱量の減少や取引先の採算悪化によるあおり等。価格競争など。
- ・ 4月から北広島市リフォーム助成金制度を活用してのリフォーム受注が多かったことや、昨年度ホームページをリニューアルしたことによりネットからのリフォーム受注および単価アップ
- ・ 19年度上期は前期からの繰り越し案件(受注残)の減少を受け、対前年減収減益。19年度下期は当初より下期重視の売上計画のため、前期(7~9月)から好転。
- ・ 消費税が高くなっても建物が古くなり賃貸物件の値段は上げられない。

- ・ 7~9月期は売上上限近くまで稼働しており、このままでは良くて「維持」にしかならず「悪化」していくことが考えられる。とはいえ、ここまでは計画以上の成果が出ており、債務超過分を少しずつ改善されており、資金繰りもやや好転してきている。これからは新規店も本格的に検討しており、売上、利益拡大を目指している。
- ・ 消費税の増税と物流コストの値上げで消費が低迷する。
- ・ 相場価格が値上がりしない状況の中で、人件費の増額のほか、事業に関わる経費が負担としては変動はするものの大きくなっているため。
- ・ 原材料の価格上昇や働き方改革に伴う時間的制約による総量の減少。人件費率の上昇により収益の悪化が顕在化しつつあると思います。
- ・ 燃料単価の高騰や労務単価の高騰により売上原価が高くなっている。今後は消費税の改定等の影響により一層事業環境に厳しさが増すと思われる
- ・ 設備投資と消費税や経費増によるご利用料金の値上げを実施したため、客足が減少する見込みである。
- ・ 毎年、賃金の法定下限(最低賃金)が上がります。10%の利益があった現場は3%ずつ賃金が上がりに続けて3年たった段階でもクライアントが料金を上げてくれなければ4年目からは赤字です。業界としては利益を出しづらい現状にあります。
- ・ 開店から4年目を迎え、お客様の定着とサービスの充実を図ったため10~12月にかけては繁忙期になる見込みである。1月は比較的に売上は落ち着くと思うが、来店サイクルによる売上の上がりは見込める。今のところ10月からの増税に対する影響は余り受けていない。
- ・ 去年の地震災害の影響により修繕等、建て替え、切つ掛けで墓じまいが進行しています。
- ・ 貸切バス事業に係る運転手の絶対的な不足。貸切バスの仕事量の減少による事業者間の競争激化(運賃水準の低下)
- ・ 固定客が多いので売上が変わらないのかなと思います
- ・ 7から9月は灯油配送先も減少します。また販売価格も高騰していたため数量限定のお客様も多数でした。今年は特に節約している方が多いような気がします。
- ・ 9月末に消費税増税前の駆け込み需要があったため、売上高が上昇しましたが、10月以降に関しては反動があると思われるため、売上についてはやや悪化すると思います。
- ・ 委託業務ですが売上は一時の勢いはありません(競合と思う)。さらに諸経費(ガソリン代など)の上昇で先行きは良くないです。
- ・ 従業員(営業社員)を増員したため人件費により採算、資金繰りは悪化した。今後は売上の増加が見込めるので改善される見込み。
- ・ 事業所としては生産品目の増加により売上、採算は好転したが、業界全体は薬価が低下、ジェネリック医薬品の普及等により厳しい業況等が続くとみられている。